平成 24 年 2 月 10 日
鎌倉商工会議所

第３１回　中小企業景況調査

（平成 23 年 10 月 - 12 月）

《調査結果の要約》

中小企業の業況は、改善しつつあります。

・全業種の業況判断ＤＩは、前期に比べマイナス幅が縮小しました。（▲33.9→▲16.1）
・業種別にみると、以下のとおりです。
3 ヵ月前から好転 ↑：製造業、建設業、小売業（最寄品）、小売業（買回品）、サービス業
3 ヵ月前から横ばい→：飲食業、

1. 全業種の業況判断ＤＩは、▲16.1（3 ヵ月前と比べ＋17.8 ポイント）とマイナス幅が縮小しました。
2. 設備投資件数は、17 件（3 ヵ月前と同じ）となりました。1 年前の 10 件との比較では増加しました。
3. 経営上の問題点（回答社数に対する比率）は、①需要の停滞：52%（3 ヵ月前と比べ▲11 ポイント）（55 社）、②販売単価の低下・上昇難：28%（3 ヵ月前と比べ＋3 ポイント）（35 社）、③利用者ニーズの変化：24%（3 ヵ月前と比べ▲2 ポイント）（30 社）の順です。

〈中小企業の景況トピックス〉

・国内全産業の業況判断ＤＩは、▲24.3（3 ヵ月前と比べ＋2.3 ポイント）とマイナス幅が縮小しました。地域別に業況判断ＤＩ（全産業）をみると、すべての地域でマイナス幅が縮小しました。 製造業、非製造業ともに業況判断ＤＩは、マイナス幅が縮小しました。

・神奈川県全産業の業況判断ＤＩは、▲44.7（3 ヵ月前と比べ＋5.8 ポイント）とマイナス幅が縮小しました。業種別には製造業が前期比＋6.7 ポイント、建設業が前期比＋4.3 ポイント、商業・サービス業が前期比＋5.7 ポイントとなり、全業種で業況判断が上昇する結果となりました。

＊国内は、独立行政法人　中小企業基盤整備機構、神奈川県は財団法人　神奈川産業振興センターの調査報告書から抜粋

《調査要領》

1. 調査時点： 平成24年1月現在
2. 調査対象： 鎌倉市内の中小企業、特に小規模企業（製造業・建設業・小売業（最寄品）・小売業（買回品）･飲食業・サービス業）の中から150企業を抽出

	製造業	建設業	小売業		飲食業	サービス業	合 計
			最寄品	買回品			
調査件数	15	15	23	30	37	30	150
回答数	13	14	19	25	29	24	124
回答率	86.7%	93.3%	82.6%	83.3%	78.4%	80.0%	82.7%

3. 調査方法 ：郵送によるアンケート方式(一部経営指導員による聞き取り)
4. 調査項目
   (1). ＤＩの状況について
   ① 自社の業況 ② 売上額 ③ 資金繰り ④ 採 算 ⑤ 従業員数
   (2). 設備投資について
   (3). 経営上の問題点について
5. 調査データについて
   (1). ＤＩ：Diffusion Index(ﾃﾞｨﾌｭｰｼﾞｮﾝｲﾝﾃﾞｯｸｽ・景気動向指数)の略。
   各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値で、企業の景況感の判断に使用する指数。
   (2). データは当該期間（四半期ごと）と、その前年同期および向こう3ヵ月の見通しを対比したものです。
   ・四半期; １年の4分の1、すなわち「3ヵ月間」
   ・前期比; 3ヵ月前（今回は6か月前）との比較
   ・前年同期比; 1年前との比較

＜ＤＩ計算例＞

「やや増加」・「やや好転」50% 「変わらず」20% 「やや悪化」・「やや減少」30%の場合、次のような計算になります。

ＤＩ ＝ 50 － 30
＝ 20

《調査結果》

Ⅰ.全業種

□業況 DI

・全業種の業況判断 DI は▲16.1（前期比＋17.8 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲13.7 と改善の見通しです。

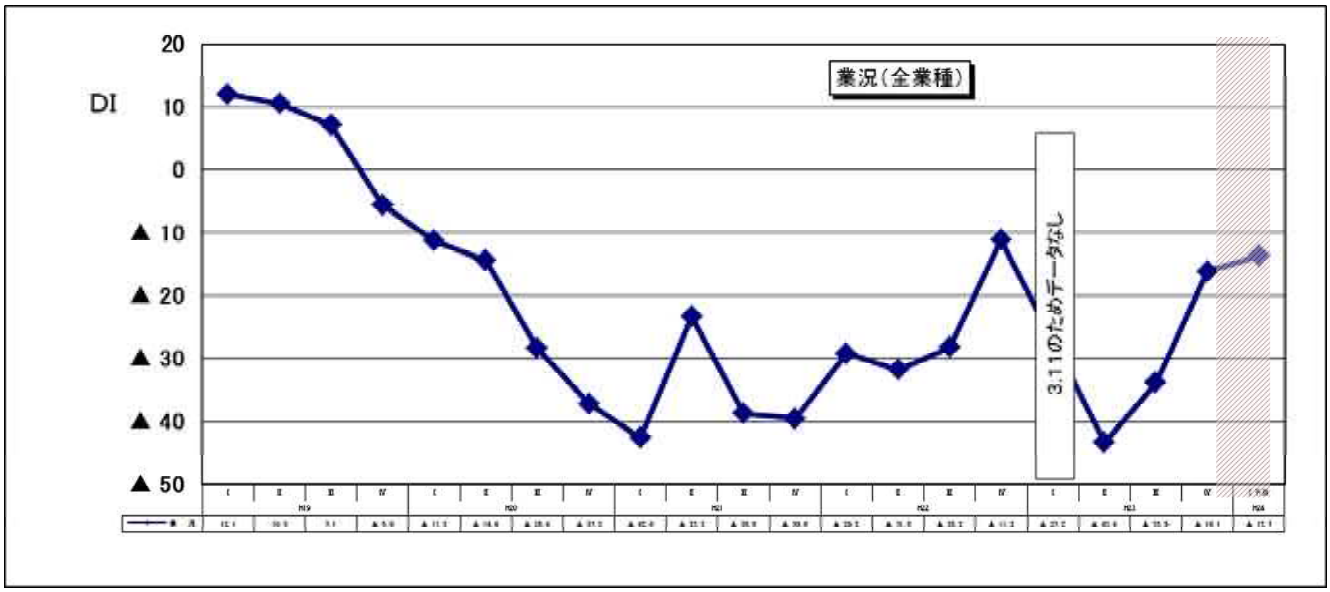
・売上 DI は▲22.6（前期比＋17.2 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲22.6 と横ばいの見通しです。

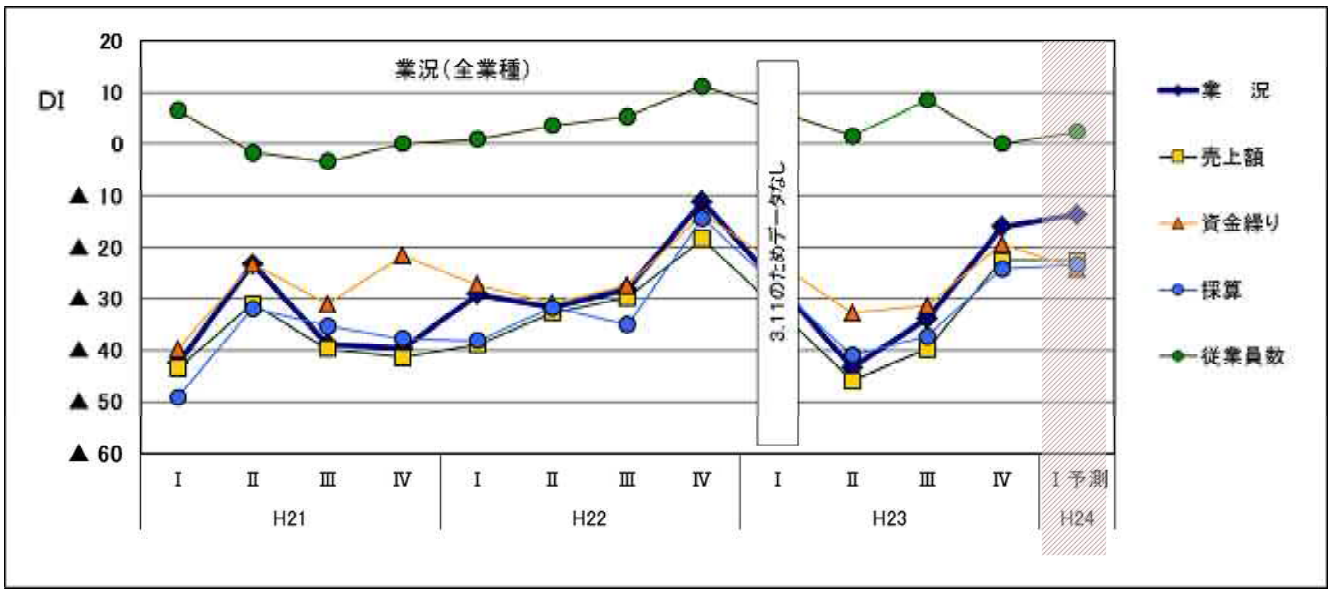
・資金繰り DI は▲19.4（前期比＋12.0 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲24.2 と悪化の見通しです。

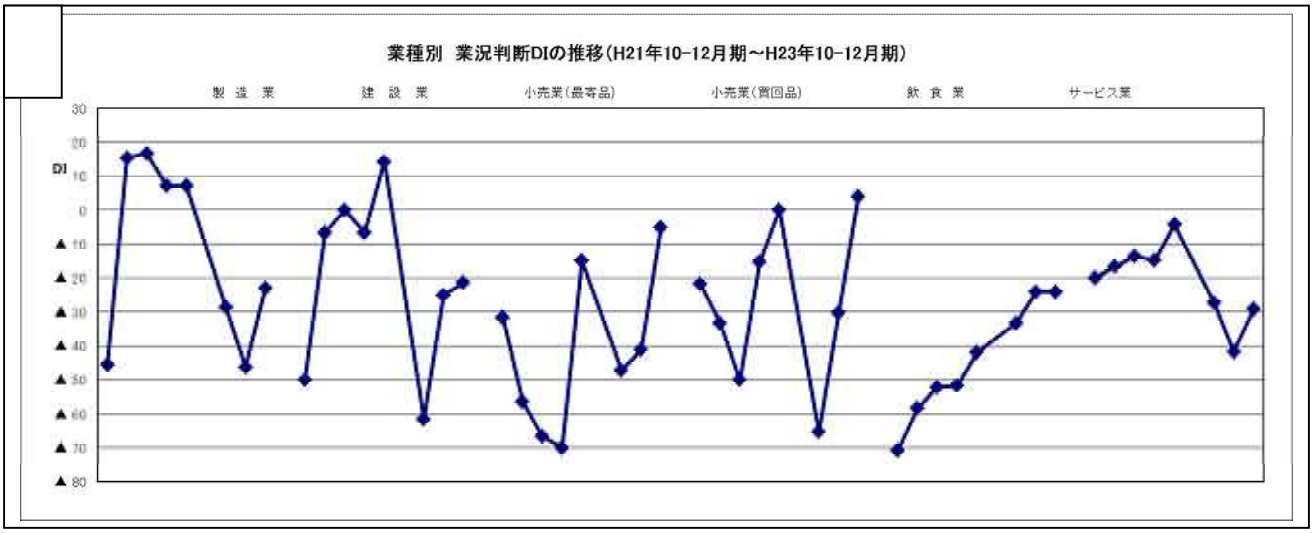
・採算 DI は▲24.2（前期比＋13.1 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲23.4 と改善の見通しです。

・従業員数 DI は±0（前期比▲8.5 ポイント）と人手不足感が解消し、3 ヵ月先は＋2.4 と人手不足感が拡大する見通しです。

・業種別の業況判断 DI は、製造業、建設業、小売業（最寄品）、小売業（買回品）、サービス業でマイナス幅が縮小し改善しましたが、飲食業は横ばいでした。





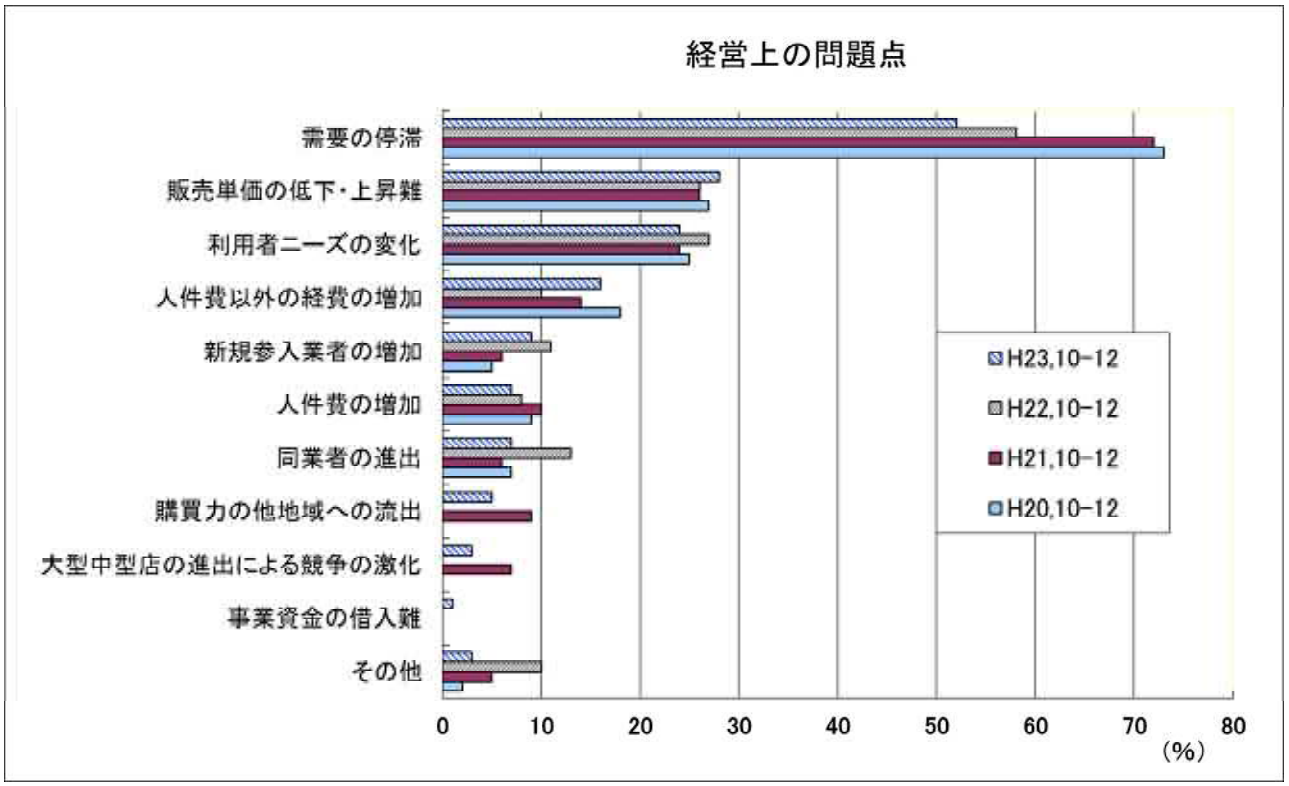


□設備投資の動向

・設備投資件数は、17 件（3 ヵ月前と横ばい）となりました。1 年前の 10 件との比較では増加しました。内訳の上位は、ＯＡ機器 4 件、機械設備 6 件、車両運搬具 3 件、建物 4 件です。

□経営上の問題点

・経営上の問題点は、①需要の停滞：52%（65 社)、②販売単価の低下・上昇難：28%（35 社)、③利用者ニーズの変化：24%（30 社）の順です。



Ⅱ.業種別

1. 製造業

□業況 DI

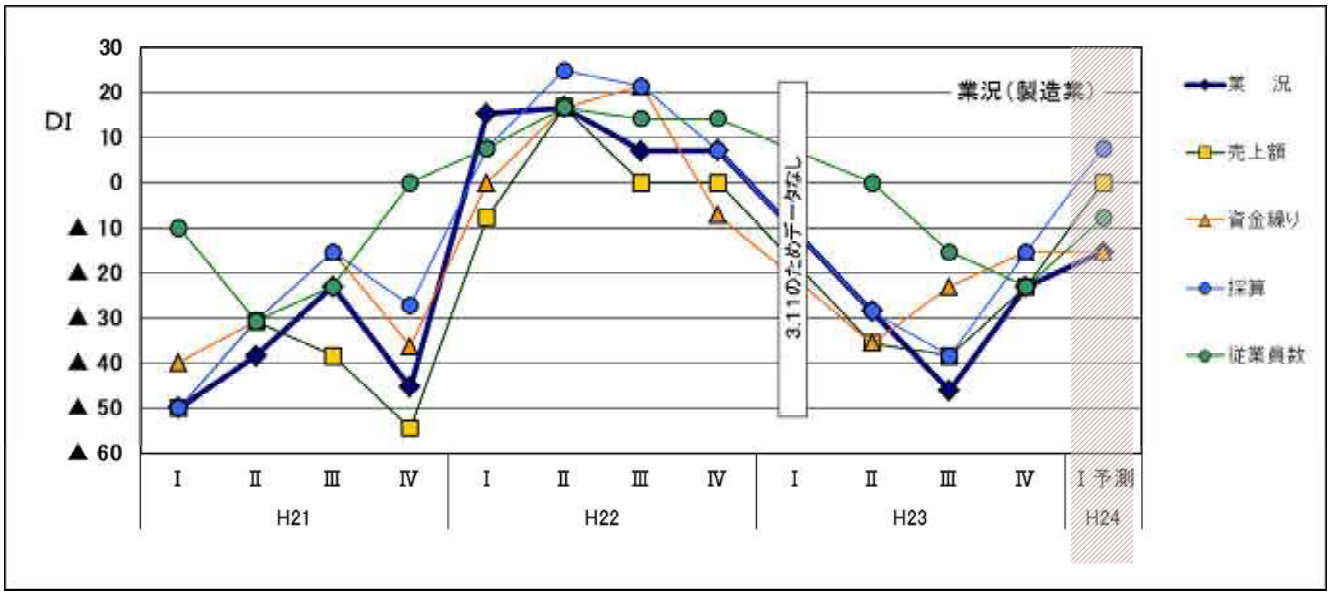
・業況判断 DI は▲23.1（前期比＋23.1 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲15.4 と改善の見通しです。

・売上 DI は▲23.1（前期比＋15.4 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は±0 と改善の見通しです。

・資金繰り DI は▲15.4（前期比＋7.7 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲15.4 と横ばいの見通しです。

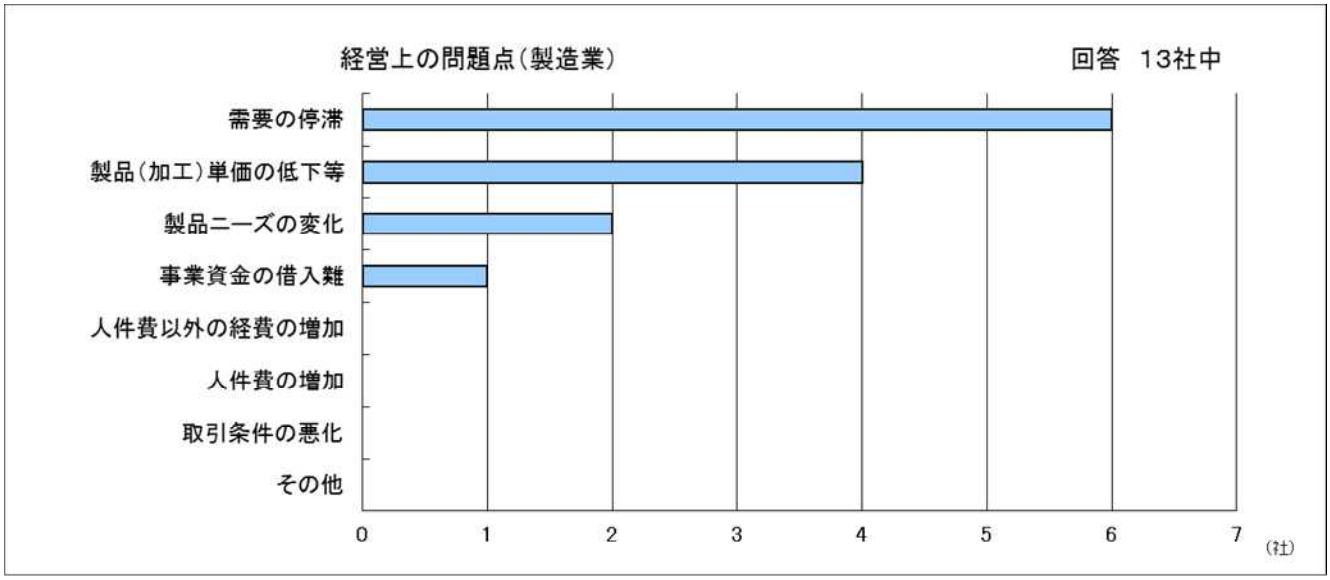
・採算 DI は▲15.4（前期比＋23.1 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は＋7.7 と改善の見通しです。

・従業員数 DI は▲23.1（前期比▲7.7 ポイント）と人手過剰感が拡大し、3 ヵ月先は▲7.7 と人手過剰感が改善の見通しです。



□設備投資の動向　　設備投資件数は機械設備 1 件、車両運搬具 1 件です。

□経営上の問題点



２．建設業

□業況 DI

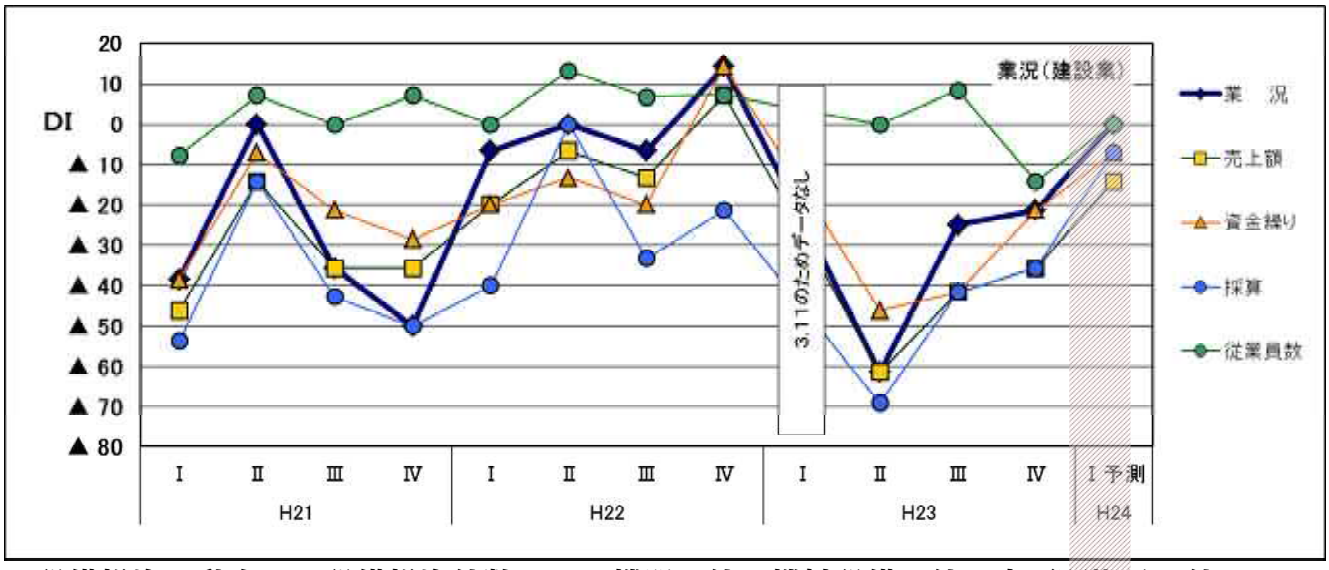
・業況判断 DI は▲21.4（前期比＋3.6 ポイント）とわずかにマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は±0 と改善の見通しです。

・ 売上 DI は▲35.7（前期比＋6.0 ポイント）とマイナス幅が縮小し，3 ヵ月先は▲14.3 と改善の見通しです。

・資金繰り DI は▲21.4（前期比＋20.3 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲7.1 と改善の見通しです。

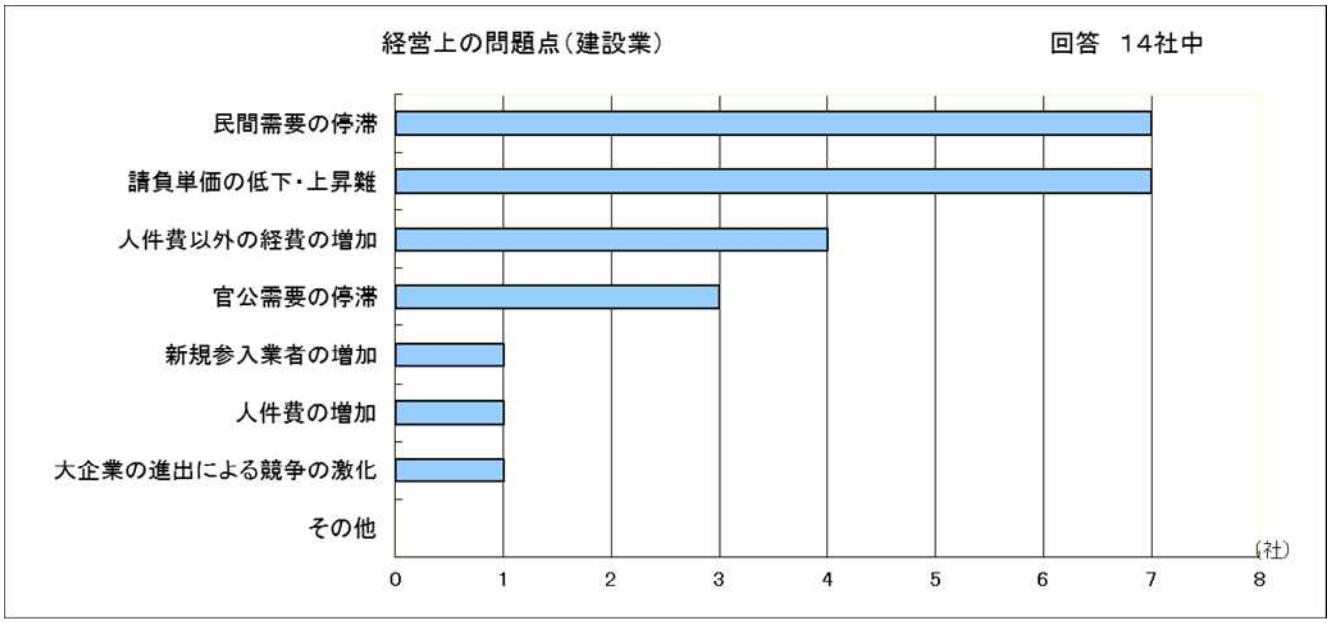
・採算 DI は▲35.7（前期比＋6.0 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲7.1 と改善の見通しです。

・従業員数 DI は▲14.3（前期比▲22.6 ポイント）と人手過剰感が生じ、3 ヵ月先は±0 と人手過剰感が解消する見通しです。



□設備投資の動向　　設備投資件数はＯＡ機器３件、機械設備１件、車両運搬具１件です。

□経営上の問題点



3．小売業（最寄品）

□業況 DI

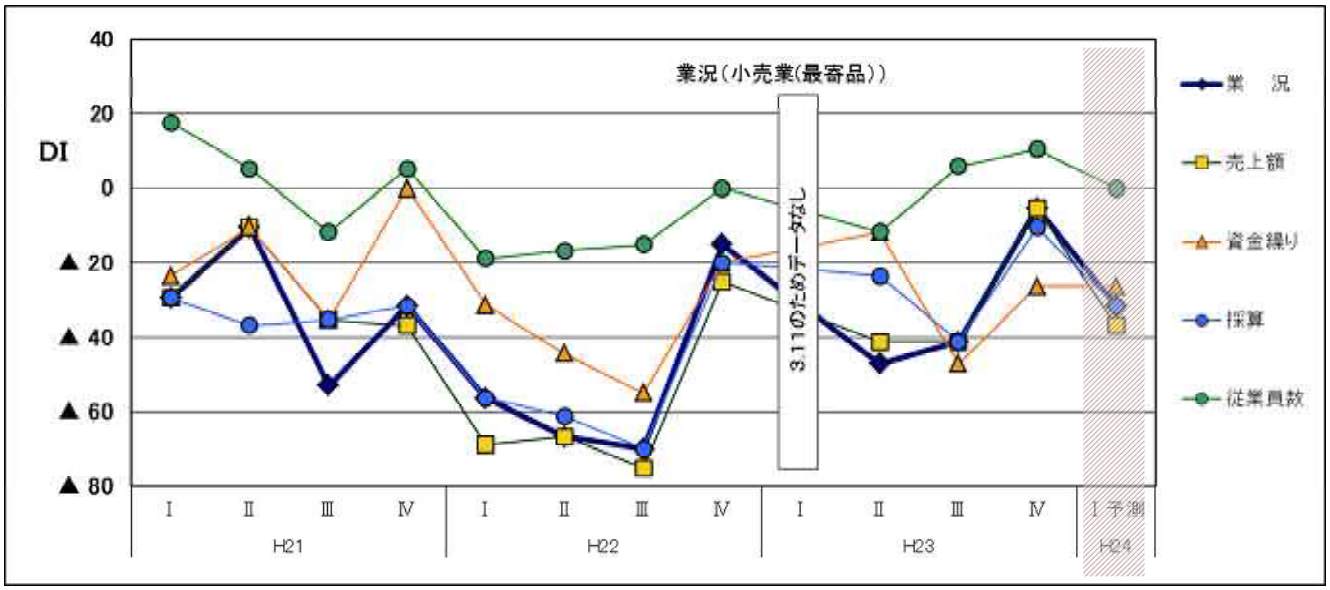
・業況判断 DI は▲5.3（前期比＋35.9 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲31.6 と悪化の見通しです。

・売上 DI は▲5.3（前期比＋35.9 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲36.8 と悪化の見通しです。

・資金繰り DI は▲26.3（前期比＋20.8 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲26.3 と横ばいの見通しです。

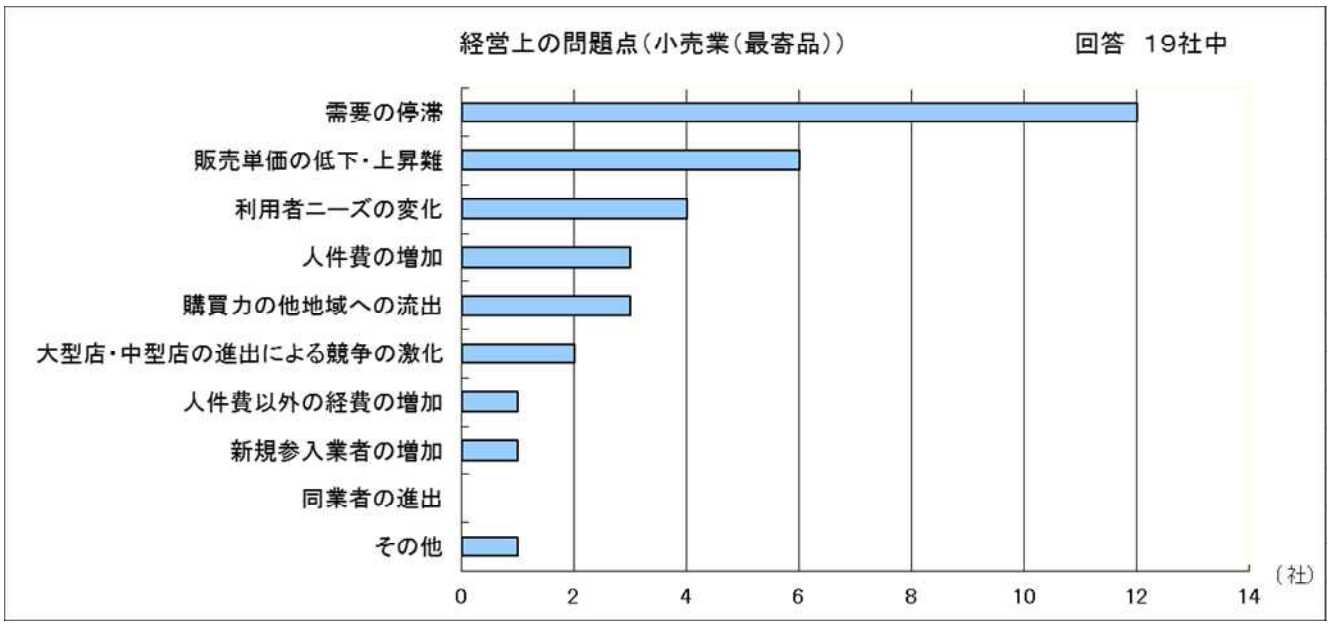
・採算 DI は▲10.5（前期比＋30.7 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲31.6 と悪化の見通しです。

・従業員 DI は＋10.5（前期比＋4.6 ポイント）とわずかに人手不足感が拡大しましたが、3 ヵ月先は±0 と解消の見通しです。



□設備投資の動向　　設備投資件数は機械設備 2 件、建物 2 件です。

□経営上の問題点



4. 小売業（買回品）

□業況 DI

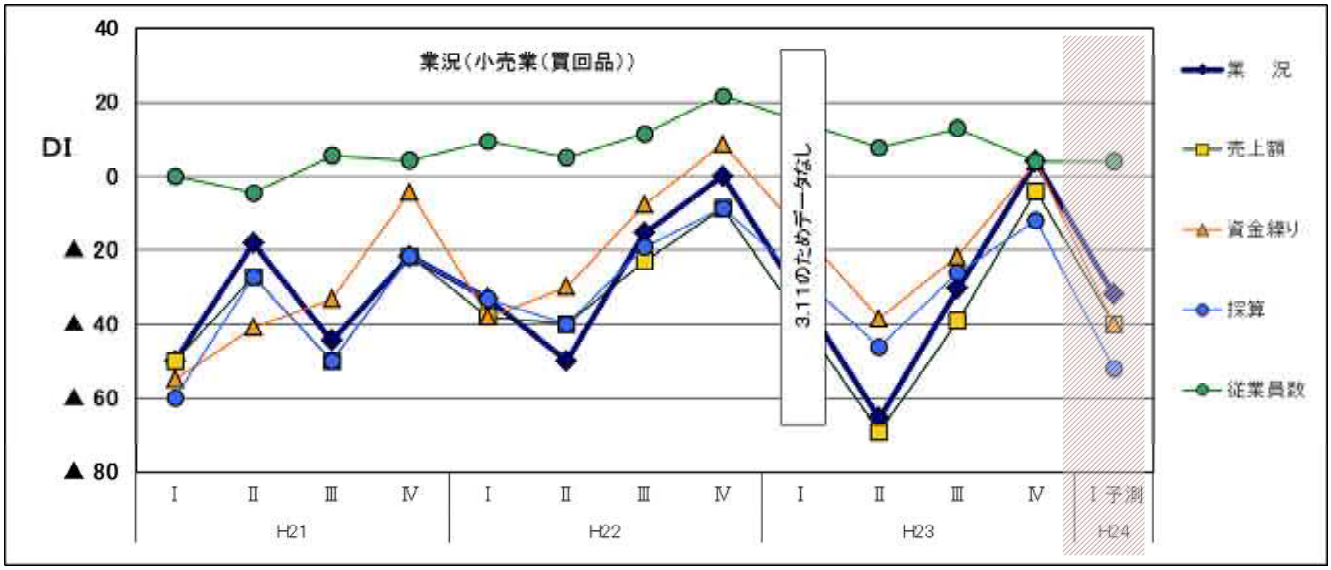
・業況判断 DI は＋4.0（前期比＋34.4 ポイント）とマイナスからプラスに大きく改善し、3ヵ月先は▲32.0 と悪化の見通しです。

・売上 DI は▲4.0（前期比＋35.1 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲40.0 と悪化の見通しです。

・資金繰り DI は＋4.0（前期比＋25.7 ポイント）とマイナスからプラスに大きく改善し、3ヵ月先は▲40.0 と悪化の見通しです。

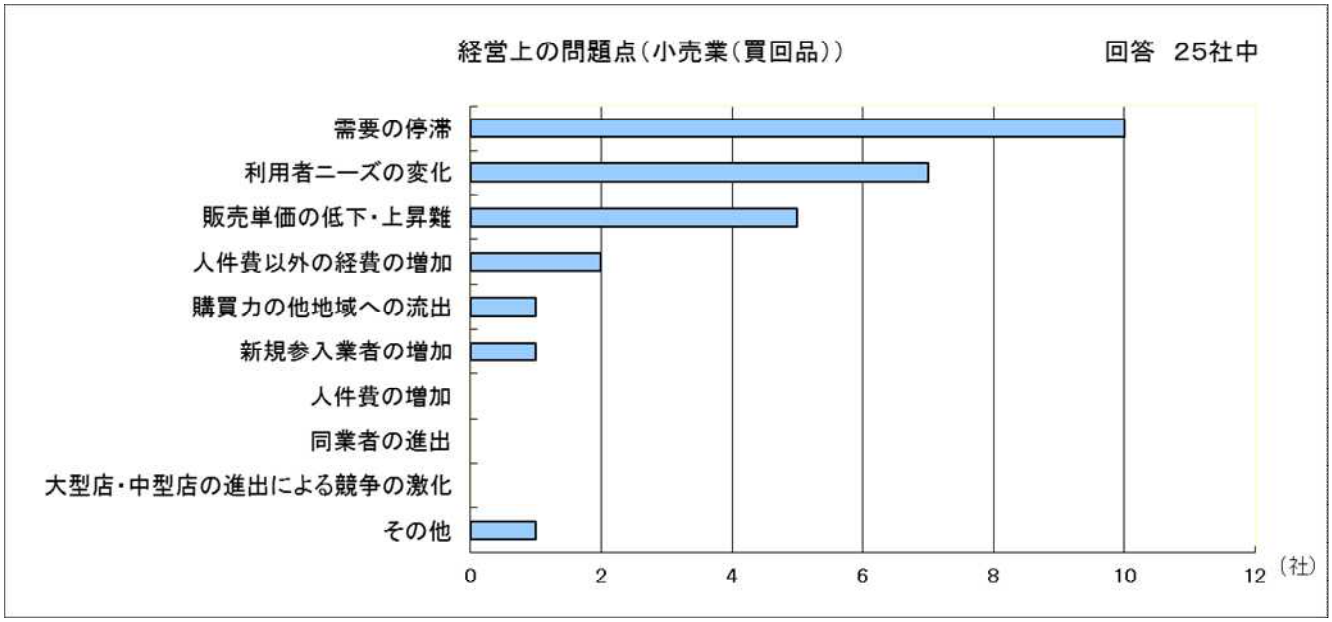
・採算 DI は▲12.0（前期比＋14.1 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲52.0 と悪化の見通しです。

・従業員数 DI は＋4.0（前期比▲9.0 ポイント）と人手不足感が縮小し、3 ヵ月先は＋4.0 と横ばいの見通しです。



□設備投資の動向　　設備投資件数はＯＡ機器１件、車両運搬具１件、建物１件です。

□経営上の問題点



5. 飲食業

□業況 DI

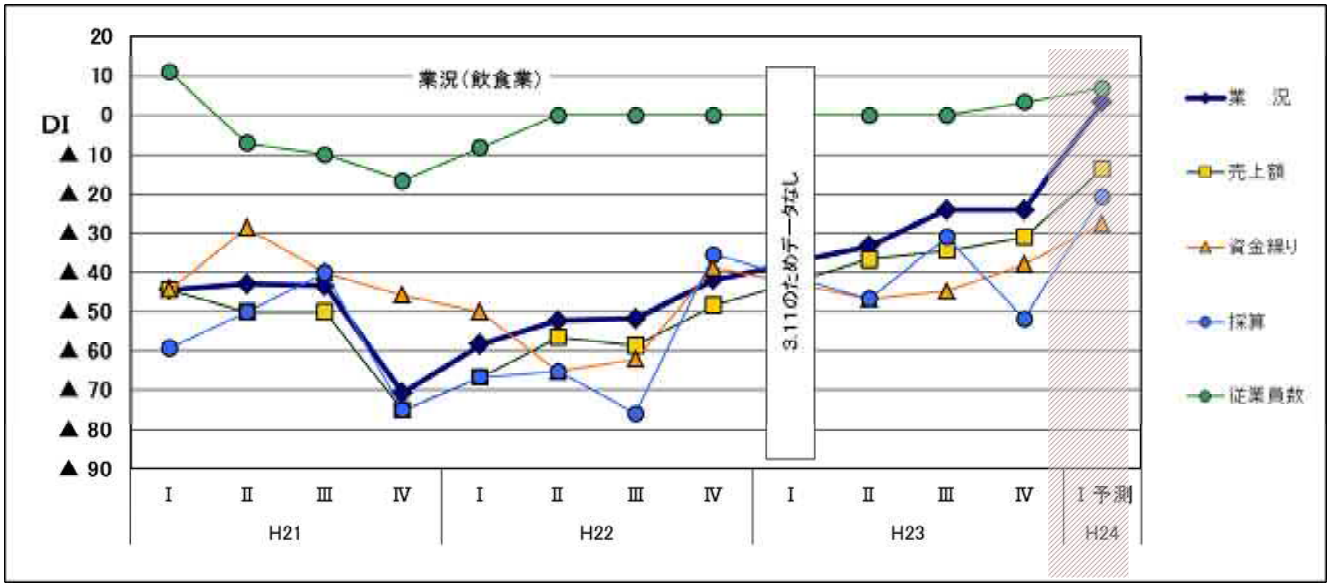
・業況判断 DI は▲24.1（前期比±0 ポイント）とマイナス幅が横ばい、3 ヵ月先は＋3.4 と改善の見通しです。

・売上 DI は▲31.0（前期比＋3.5 ポイント）とわずかにマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲13.8 と改善の見通しです。

・資金繰り DI は▲37.9（前期比＋6.9 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲27.6 と改善の見通しです。

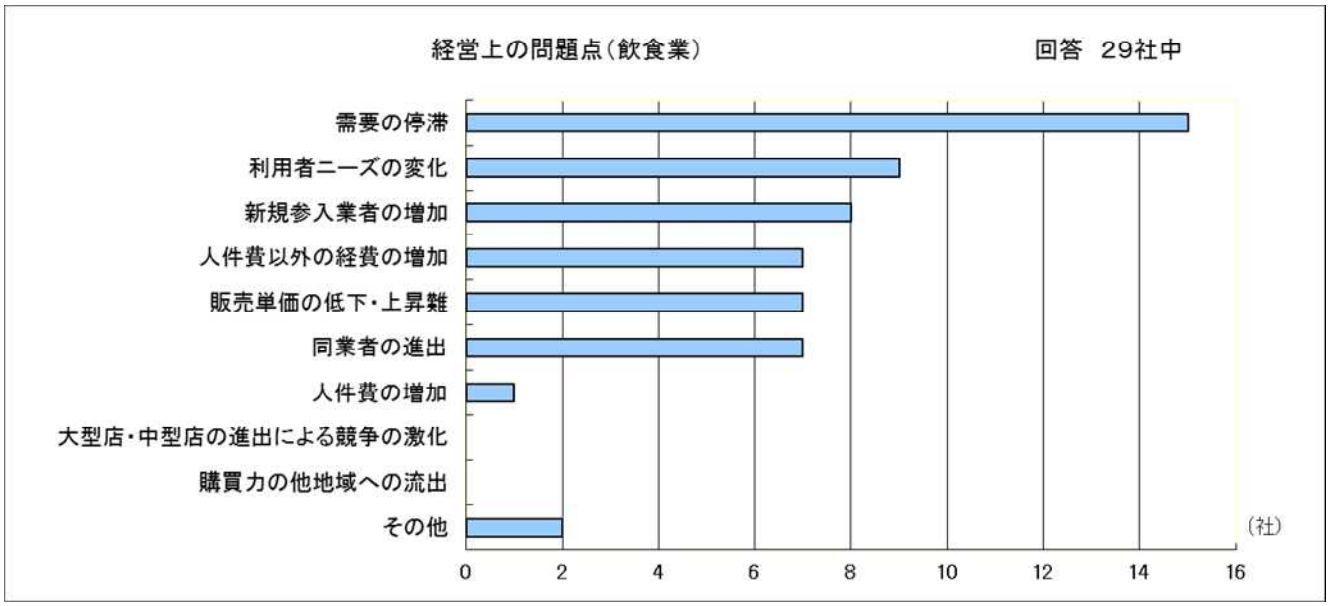
・採算 DI は▲51.7（前期比▲20.7 ポイント）とマイナス幅が大きく拡大し、3 ヵ月先は▲20.7 と改善の見通しです。

・従業員数 DI は＋3.4（前期比＋3.4 ポイント）と人手過不足感が拡大し、3 ヶ月先は＋6.9 と不足感が拡大の見通しです。



□設備投資の動向　設備投資件数は機械設備 2 件、建物 1 件です。

□経営上の問題点



6. サービス業

□業況 DI

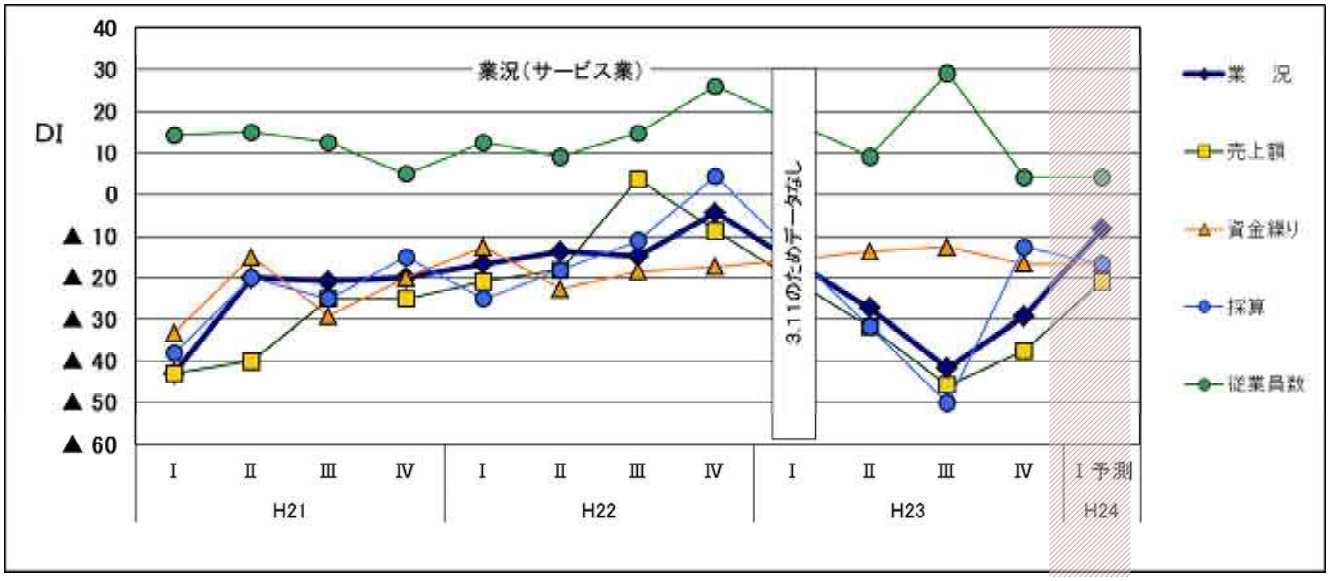
・業況判断 DI は▲29.2（前期比＋12.5 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲8.3 と改善の見通しです。

・売上 DI は▲37.5（前期比＋8.3 ポイント）とマイナス幅が縮小し、3 ヵ月先は▲20.8 と改善の見通しです。

・資金繰り DI は▲16.7（前期比▲4.2 ポイント）とわずかにマイナス幅が拡大し、3 ヵ月先は▲16.7 と横ばいの見通しです。

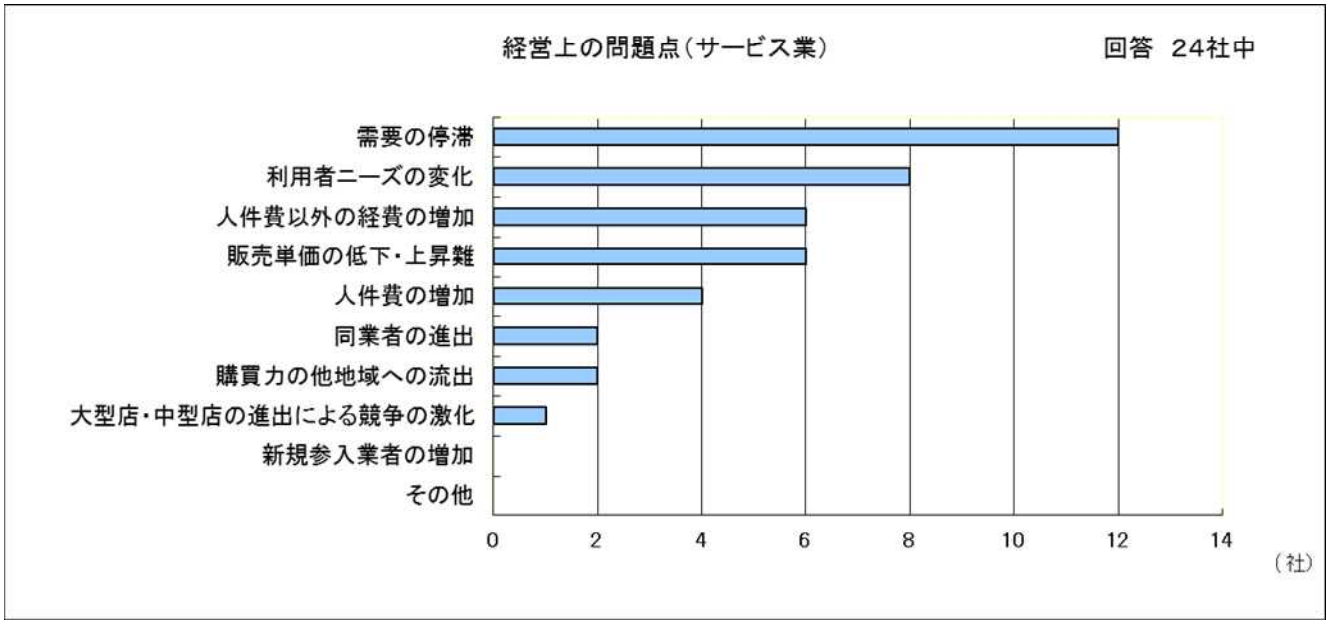
・採算 DI は▲12.5（前期比＋37.5 ポイント）とマイナス幅が大きく縮小し、3 ヵ月先は▲16.7 と悪化の見通しです。

・従業員数 DI は＋4.2（前期比▲25.0 ポイント）と人手不足感が大きく縮小し、3 ヶ月先は＋4.2 と横ばいの見通しです。

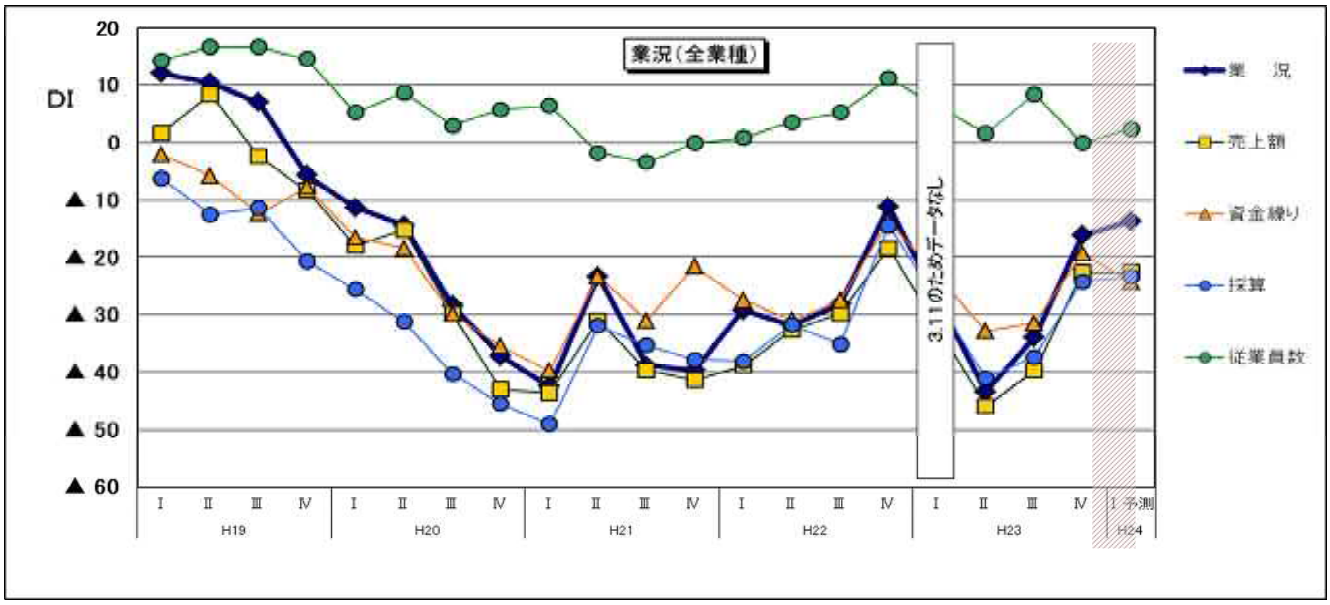


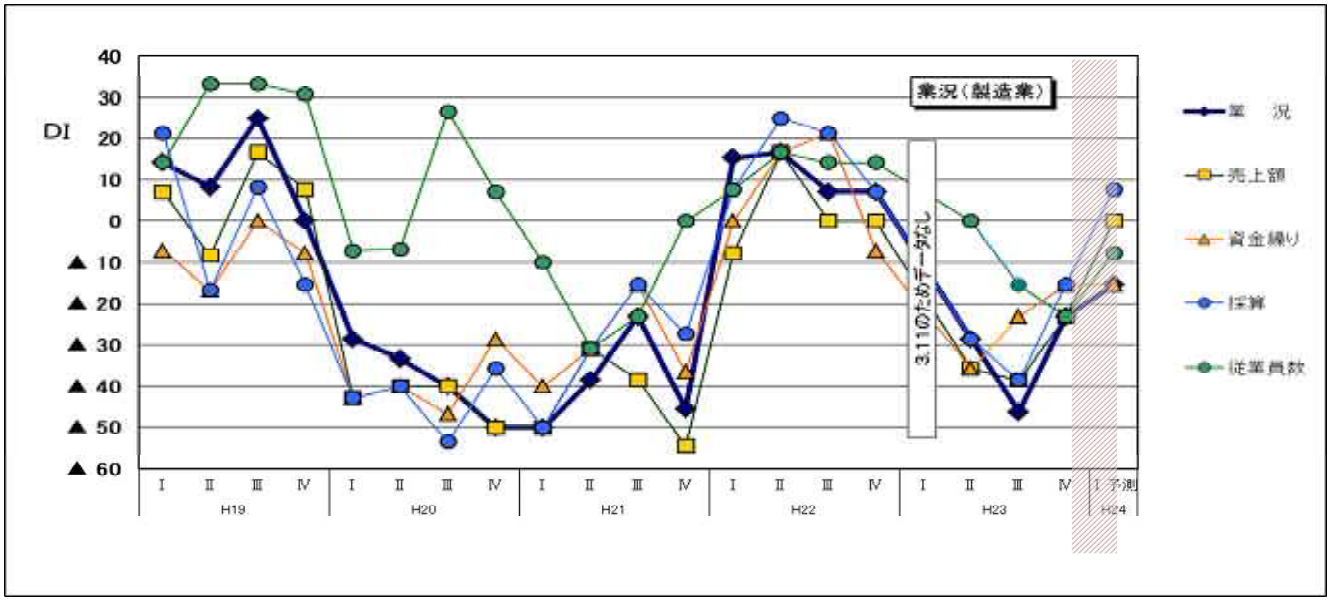
□設備投資の動向　　設備投資件は建物１件です。

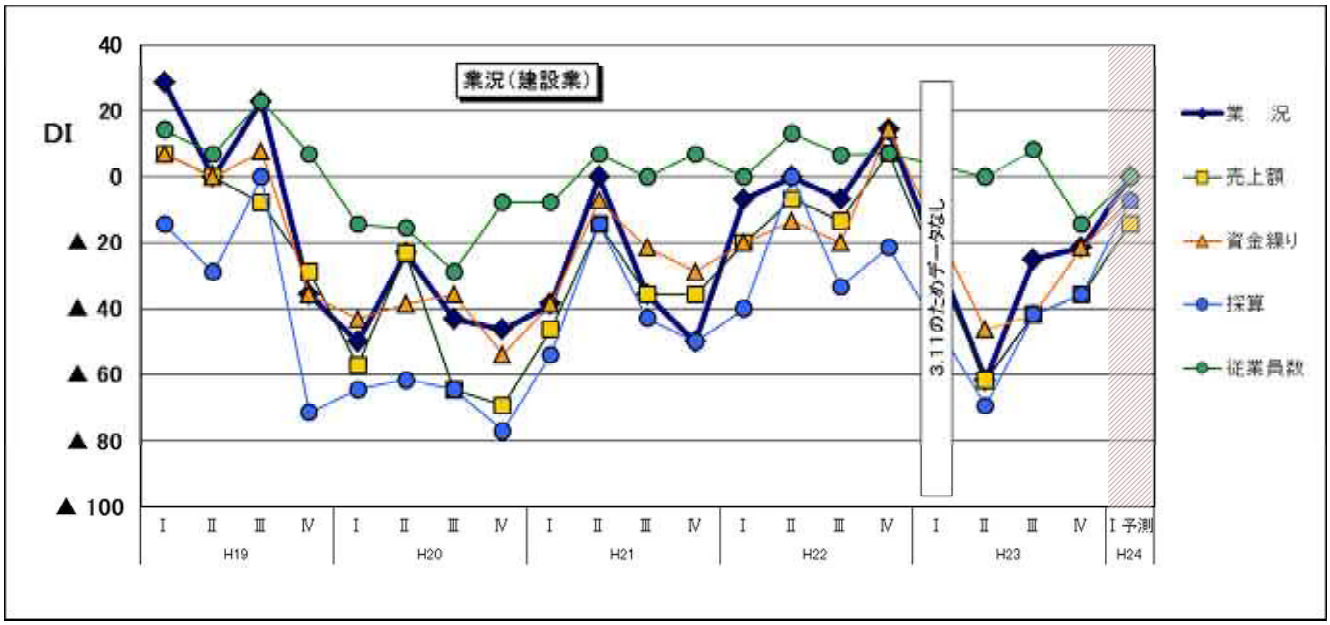
□経営上の問題点

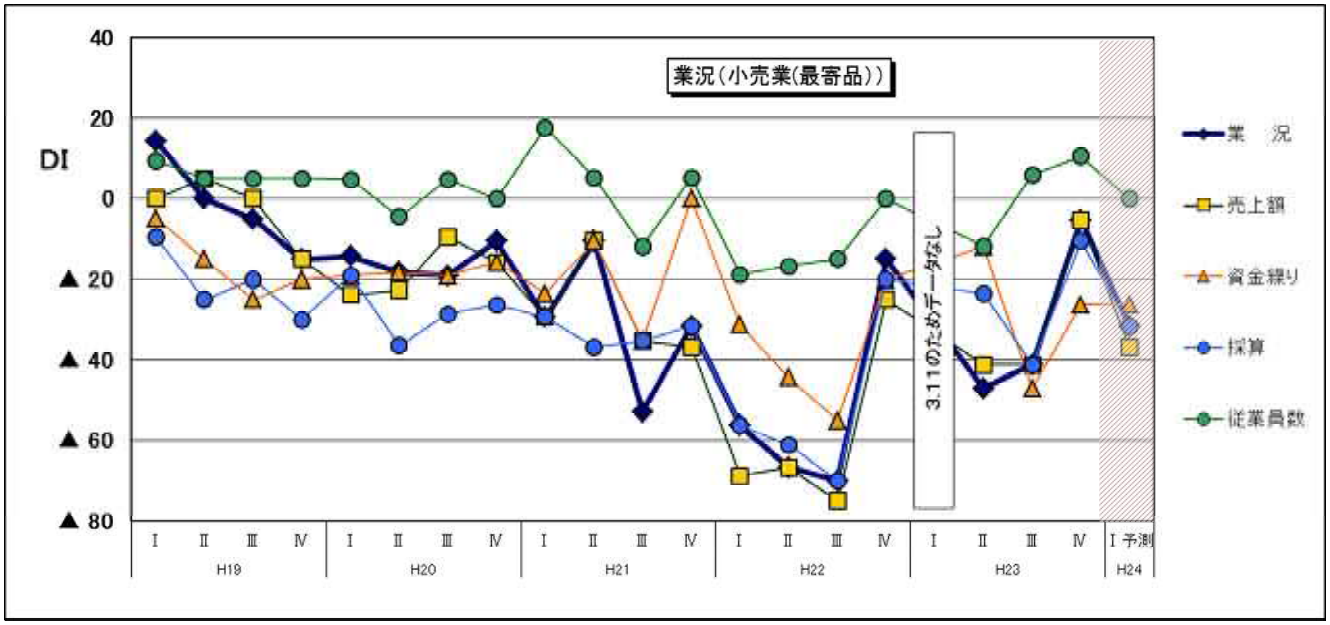


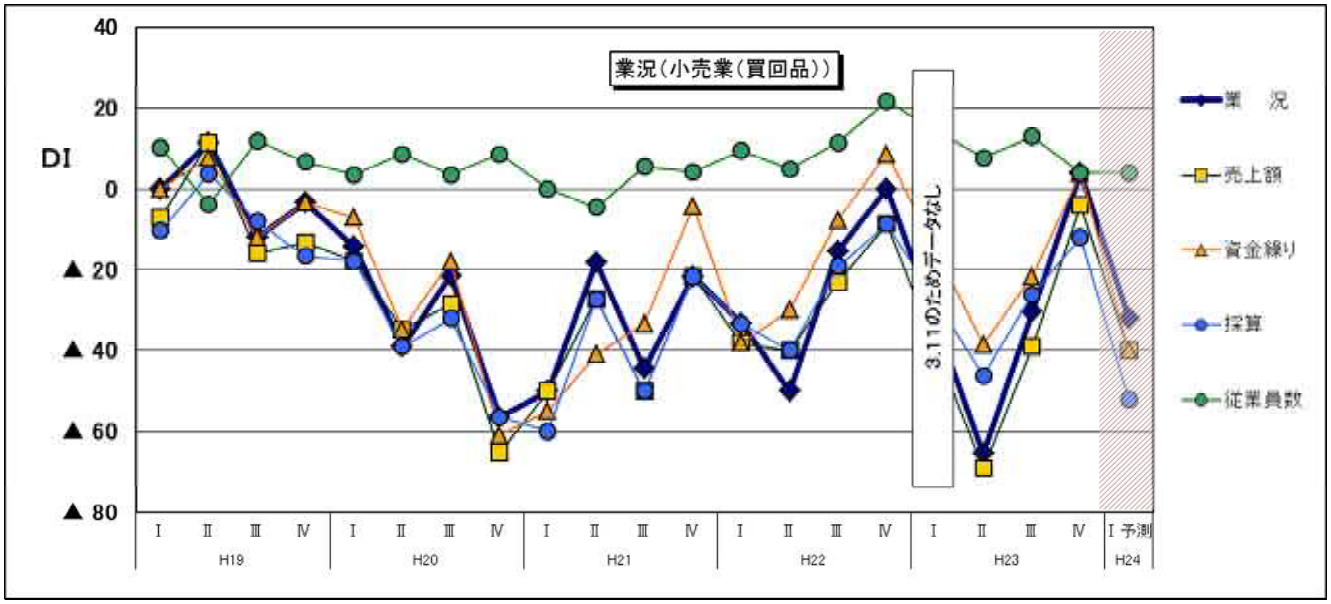
《資料》５年分の推移

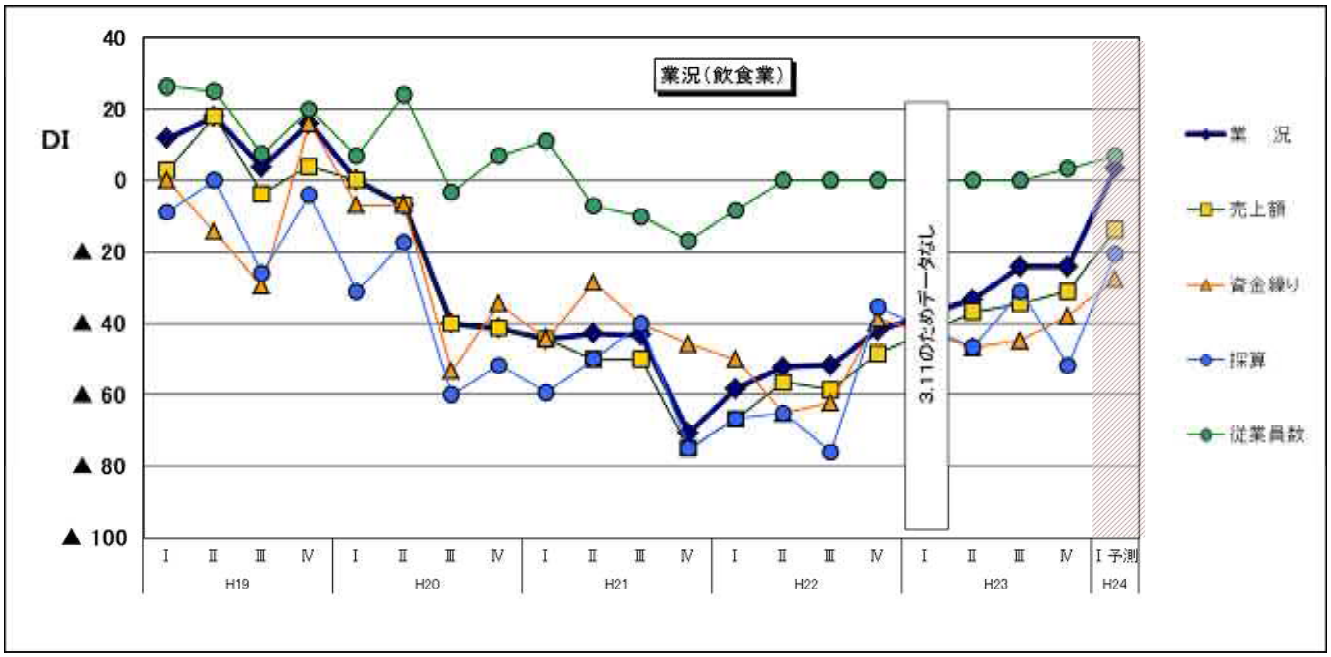

業況（全業種）
DI
20
10
0
▲ 10
▲ 20
▲ 30
▲ 40
▲ 50
▲ 60
3.11のためデータなし
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
H19
H20
H21
H22
H23
Ⅰ予測
H24
業　況
売上額
資金繰り
採算
従業員数

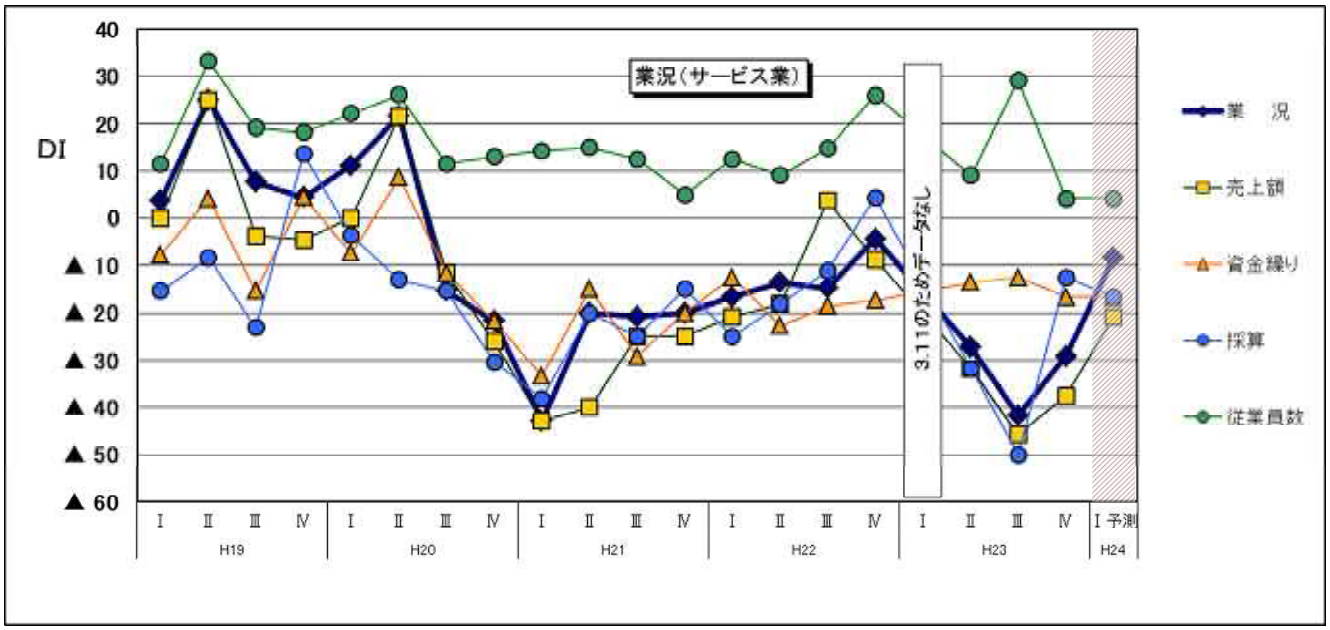

業況（製造業）
DI
40
30
20
10
0
▲ 10
▲ 20
▲ 30
▲ 40
▲ 50
▲ 60
3.11のためデータなし
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
H19
H20
H21
H22
H23
Ⅰ予測
H24
業　況
売上額
資金繰り
採算
従業員数


業況（建設業）
DI
40
20
0
▲ 20
▲ 40
▲ 60
▲ 80
▲ 100
3.11のためデータなし
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
H19
H20
H21
H22
H23
Ⅰ予測
H24
業　況
売上額
資金繰り
採算
従業員数


業況（小売業(最寄品)）
DI
40
20
0
▲ 20
▲ 40
▲ 60
▲ 80
3.11のためデータなし
業　況
売上額
資金繰り
採算
従業員数
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
H19
H20
H21
H22
H23
Ⅰ 予測
H24


業況（小売業（買回品））
DI
40
20
0
▲ 20
▲ 40
▲ 60
▲ 80
3.11のためデータなし
業　況
売上額
資金繰り
採算
従業員数
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
H19
H20
H21
H22
H23
Ⅰ 予測
H24


業況（飲食業）
DI
40
20
0
▲ 20
▲ 40
▲ 60
▲ 80
▲ 100
3.11のためデータなし
業　況
売上額
資金繰り
採算
従業員数
Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ
H19
H20
H21
H22
H23
Ⅰ 予測
H24



雑談コラム

中小企業の経営者には、経営学の理論を本格的に学んだという方は少ないように思います。

確かに、経営学を習得しただけで企業経営ができるならば、経営学者こそもっとも望ましい経営者になるはずです。しかし、現実には経営学者が名経営者になったという例は、少なくとも日本ではほとんどありません。松下幸之助、本多宗一郎、盛田昭夫などの経営者がビジネススクールで学んだということは聞いたことがありません。むしろ学歴無用論は盛田昭夫の持論でもあったようです。

では、経営学を学ぶことは無意味なのでしょうか。そんなことはありません。過去の偉大な３人の経営者は体験を先にしただけのことです。わが国ではよい会社といわれる企業ほど教育には熱心で、経営学もその際の重要な学習科目になっています。MBA（ビジネススクールの経営学修士）は経営者を目指す人には必須の資格にもなっています。人間の頭脳が、論理的で知的な活動（サイエンス）をつかさどる左脳と、直感やセンスといった非論理的で情緒的な活動（アート）をつかさどる右脳から成り立っているように、経営にもこの２つが必要です。

経営とはサイエンスでもありアートでもあります。企業を経営するには、現場で身につける実践的な知識や熟練とあわせて、教育訓練の場で学習する専門的な経営の知識が必要であることを再認識したいものです。

（AS 中小企業診断士）

Ⅱ.設備投資

全業種	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器	2	13	7	12	6	5	6	4	12	3	8	5	4	7	6	4	-	8	4	4	2
機械設備	3	10	8	11	9	5	8	5	6	4	7	5	2	4	1	1	-	3	1	6	5
車輌運搬具	5	9	7	6	5	3	4	7	2	7	4	6	1	3	6	1	-	3	4	3	5
建物	4	3	6	4	6	3	5	2	1	2	1	2	1	1	4	3	-	3	5	4	1
その他	4	2	1	2	3	1	2	3	3	1	1	3	0	1	2	1	-	3	3	0	2

製造業	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器		2		2	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	-	2	1	0	0
機械設備	1	1		1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	-	0	1	1	2
車輌運搬具			1		0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	-	1	0	1	0
建物			1		1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	-	0	0	0	0
その他				1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0

建設業	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器		2	1	1	0	0	0	0	3	1	0	0	0	1	1	1	-	1	1	3	0
機械設備		1		1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	-	0	0	1	0
車輌運搬具	1	4	2	2	2	0	1	2	0	3	1	2	1	1	0	0	-	0	1	1	2
建物	1	1	1		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0
その他	1			1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	-	0	0	0	0

小売業（最寄品）	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器	1	3	2	3	2	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	-	0	0	0	0
機械設備	1	3	1	2	1	1	3	0	1	1	1	1	0	1	0	1	-	0	0	2	0
車輌運搬具	1	1	1	3	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	2	0	-	1	2	0	1
建物	1			1	0	2	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	-	0	2	2	0
その他					0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	-	0	1	0	0

小売業（買回品）	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器					0	0	1	1	0	0	1	1	1	2	0	0	-	1	1	1	0
機械設備				1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	-	0	0	0	0
車輌運搬具	2				1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	-	0	1	1	0
建物	1	2		1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	-	1	1	0	1
その他		2			0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	1	0	0	0

飲食業	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器	1	2	1	1	0	0	1	0	1	0	2	1	1	1	0	1	-	1	0	0	0
機械設備		4	6	5	5	4	3	2	3	2	2	1	0	3	0	0	-	2	0	2	3
車輌運搬具	1	2	1		0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	-	0	0	0	2
建物	1		4	2	3	1	2	1	1	0	1	0	0	0	2	3	-	2	1	1	0
その他	3				2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	-	2	2	0	1

サービス業	H19				H20				H21				H22				H23				H24
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ予測
OA機器	0	4	3	5	2	3	2	1	5	0	4	0	0	1	3	0	-	3	1	0	2
機械設備	1	1	1	1	0	0	1	2	1	1	3	2	0	0	0	0	-	1	0	0	0
車輌運搬具		2	2	1	1	1	1	2	1	2	1	1	0	1	1	0	-	1	0	0	0
建物					0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	0	1	1	0
その他					0	1	1	0	2	0	1	1	0	1	1	0	-	0	0	0	1

以上